

うるま市まち・ひと・しごと創生総合戦略 第2回有識者会議 議事録		作成日	令和5年12月12日
		回覧先	うるま市
日時	令和5年12月12日(火)10時00分～12時00分		
場所	うるま市役所 本庁舎東棟3階庁議室		
議事項目	1. 開会 2. 委員の変更について 3. 議事 (ア) 新規施策の追加 4. 閉会		
会議資料	・ 資料1 第2次うるま市総合戦略(P1-P2, P92-P114) 抜粋 ・ 資料2 第2次うるま市総合戦略における新規施策案 ・ 参考資料1 第1回有識者会議提案まとめ ・ 参考資料2 令和5年度うるま市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議委員名簿		

○出席者

	分野	氏名	団体	出欠
委員	学識	瀬口 浩一	国立大学法人琉球大学 国際地域創造学部 教授	○
	行政	多和田 悟	内閣府沖縄総合事務局 経済産業部企画振興課長	○
	産業	石川 満	うるま市商工会 会長 (副会長 宮平 孝也)	○
	産業	瀬名波 良彦	一般社団法人うるま市観光 物産協会 理事長	×
	産業	宮平 弘	沖縄県農業協同組合 具志川支店長	○
	金融	嶺井 忍	沖縄振興開発金融公庫 中部支店長	○
	労働	辻 太一	株式会社うむさんラボ Chief People Officer	○
	言論	伊波 良和	株式会社FMうるま 取締役会長	○
	自治会	澤岬 繁光	うるま市自治会連絡協議会 上江洲自治会長	○
	子育て	外間 ケイ子	社会福祉法人かなさ福祉会 勝連こども園 統括園長	○
	デジタル	知念 敏志	日本電気株式会社 クロス インダストリービジネスユ ニットスマートシティ事業 部門国内スマートシティ営 業統括部長	○
デジタル	藤原 猛	一般社団法人沖縄観光DX 推進機構 専務理事	×	
事務局	企画政策課 課長	玉城 貴志		
	企画政策課 係長	盛根 淳二		
	企画政策課主事	新垣 魁秀		

議 事 内 容

1. 開会

2. 委員の変更について

3. 議事

(ア) 新規施策の追加

資料1の説明(事務局)

意見質問

- ・ (委員) 今回の改定ではデジタル田園交付金を見据えたものになるという認識であっているのか。
- ・ → (事務局) 今回紹介したものの他にも、母子モなどがある。また、今回の改定でも検討される。

- ・ (委員) 教員の働き方改革について、一番の課題は教師の人数が足りていないこと。
 - (事務局) ICT を活用した事務の効率化を記載している。学習環境を整えるアプリや効率的な学校運営を ICT で活用したい。
 - (委員) 学校の現状を見ると、教員が生徒の対応に時間を割くことができているのが問題だと考えている。ICT の活用で解決することは難しいのではないのか。
 - (委員) 小学校は落ち着いて授業を受けれているが、中学校の生徒は落ち着いていないのが現状みられる。
 - (事務局) 現状、時間がかかっている業務や作業を ICT 活用し短縮させることで、生徒との時間を増やすことができると考えている。

- (委員) 教師よりも生徒の方が ICT に強いことが多い。いくらスペックの良い機器を入れても教員が対応できていない。また、校長の任期が 2~3 年で変わってしまうため、学校を新しい方針に変えていくための時間が足りないのではないのか。可能であれば校長先生の任期を伸ばすことも検討する必要がある。
- (委員) どんなに良いシステムを入れても、教員が対応できていないので、教員の任期も伸ばすことも検討して欲しい。学校ごとに利用するシステムが違うため、システムに慣れるころには移動になってしまっている。
- (事務局) 学校の現場では一人一台端末が配られている。認識できている課題としては、各学校校長に任せきりな部分が大きかった。現在、ICT 化などの取り組みを教育委員会が中心となって働きかけてもらうよう内部で調整を行っている。

- (委員) 沖縄県は金融リテラシーが低いというのが出ている。うるま市で独自で小中学生のうちに金融リテラシーを学ぶ機会を設けても良いのではないのか。
- (委員) 教育委員会としても金融リテラシーの授業を組むことが年間 1, 2 コマしか取れないのが現状。教師も教えるというハードルは高いため、外部の協力が必要になってくる。
- (事務局) 金融リテラシーについては、追記も含めて担当課と調整を行っていきたいと思う。

- (委員) うるま市で利用されているアプリはどの程度あるのか。
- (事務局) 教育だけでも 3 つはある。
- (委員) 市の中でアプリが多くなってしまわないのか。
- (事務局) インターフェイスとなる入口は統合化していく仕組みを作っている。入り口としての機能を整備している。
- (事務局) 市民には LINE を活用してもらうよう働きかけている。

- (委員) テーマを設けて放課後の生徒とのつながりを取り組みについても検討して欲しい。
- (事務局) うるま市としては、放課後の居場所づくりや部活動にも力を入れている。今の意見については関連部署に共有を行い、様々な施策に取り込んでいきたい。

- (委員) 公共交通の整備は現状足りておらず、特に交通弱者(高齢者)に対するサポートの充実が必要。お年寄りが元気だと地域にも活力が生まれる。便利な ICT は導入されていると思うが、扱いきれない高齢者が利用を嫌煙している。
- (事務局) 充実させたい気持ちはあるが、費用面などの課題もある。路線を増やすのであれば有料化などの検討が必要になる。
- (委員) コミュニティバスの路線の拡大については、自治体の意見も取り入れて欲しい。
- (事務局) うるま市はコンパクトシティではなく、拠点があいくつもある特性がある。それらをつなげるために様々な検証を行う必要がある。
- (委員) お年寄りが何を望んでいるのか、どこに行きたいのか、高齢者の意見も聞き入れて欲しい。
- (委員) お年寄りの方が、コミュニティバスを使う際のニーズについてお聞きしたい。買い物だけであれば、うるマルシェに持ってきてもらう等の方法があると思う。

- (委員) お年寄りがコミュニティバスを利用する際は、病院・役所・買い物などが主だが、買い物については、持ってきてもらうのではなく、何人かで一緒に行くほうが活力にもつながる。
- (事務局) 民間のバスの路線の影響も考えながら、商業施設が通るルートを設定するなど検討していきたいと思う。
- (委員) デジタル市民の検討があるが、導入したらどうなるのかイメージはあるのか。
- (事務局) 一例として新潟県の民間が主導したものがある。デジタルを通して、地域のファンを増やし、関係人口を増やすことが目的になる。
- (委員) うるま市の人ではなく、地域外の人を対象になるという認識で良いのか。
- (事務局) その認識で間違いない。
- (委員) 特定不妊治療と先進医療（不妊治療）の違いについて。
- (事務局) 特定不妊治療は保険適用されるが、先進医療（不妊治療）は保険適用外や、一部適用外があるので特定不妊治療とは別にしている。
- (委員) 結婚支援について具体的にどのような支援を行うのか。
- (事務局) 内部会議ではアパートへの引っ越しの金銭的支援などが出たが、事業については今後精査していく必要があるため、今回は方向性だけを掲載している。
- (委員) 基本目標 1 を追加した経緯について
- (事務局) 石川地域と勝地域の観光ニーズを整理することで、うるま市への観光局を増やす。
- (委員) うるま市の旧庁舎の有効活用について、KPI が勝連城跡の来場者数になっているが、少し違和感がある。
- (事務局) 勝連城跡の来場者数については KPI の整合性は取れていない。
- (委員) 勝連城跡というピンポイントなもので違和感があった。KPI のカウントの仕方については検討していく必要がある。
- (委員) 闘牛場の駐車場が足りていない。単なる闘牛場の駐車場ではなくて、石川 IC を含めた石川地域全体での検討が必要。石川から勝連城に向けた線を通して、勝連で宿泊してもらう等はどうか。
役所の担当も入れ替わりがあるので、引継ぎはしっかりして欲しい。
- (事務局) 引継ぎを適切に行うためにも、プロジェクトとして動いている。
- ・ (委員) 事務局側から議論して欲しいテーマなどがあれば提示して欲しい。
- (事務局) 農林水産業のスマート化について、担当課と調整を行ったがイメージをつかめていないので追加できていない。何かアイデアがあればお聞きしたい。
- (委員) 廃校を使って、パナエイベジやきくらげの養殖を行っている。そういった事業も検討していくと良いのではないか。
- (委員) 第一次産業（農家・漁師）の平均年齢の高さが課題。今後 10 年で、荒廃農地などが増えてしまうことで、デジタルを入れることが難しくなってしまう。
- (事務局) 新規就業者を増やす取り組みをしているが、高齢者でもできるというような考え方の転換が必要。
- (委員) すべて機械化された農業だと地域の風景も変わっていくので、
- (委員) ビオスの丘でトマトの販売など観光農園を始めている。闘牛場の近くでもできるのではないか。
- (委員) すべてのテーマで LINE を活用している。LINE 活用で観光客を増やす取り組みなど全国で行われている。タッチポイントとしての LINE の活用を検討しても良いのではないか。
- (事務局) LINE の活用については、担当課（DX 推進課）とも共有し、取り組んでいきたいと思う。
- (委員) 宇都宮では LINE を活用して、お店の状況や整理券の発行を行っている。そういった情報を LINE で収集することで、観光客の動線をデータ化している。
- (委員) うるま市のデータの利活用の現状について
- (事務局) 昨年度から CSV 形式で HP に公表している。
- (委員) 自主防災組織はできているが、自主防災組織の代表が自治会長になってしまい、有事の際に対応が難しい。実働するために自主防災組織と消防との連携を図ってほしい。
- (事務局) 今年度のうるま市の経営方針で、自主防災組織に消防団や消防 OB の参加などを検討している。

a 以上